

活 動 報 告

誰もが尊重される地域づくりのために

安曇野市では「共生社会づくり計画(仮称)」の策定が予定されています。そこに大きく関わる「多様性」の視点を中心に活動を行い、11月6日(土)7日(日)開催された三郷地域文化産業展で、パネル展示による呼びかけを行いました。



パープル・ライトアップの様子

- ① 【お互いが差別しない人間になって、温かな地域づくりを目指す】
会員により400個余り作成されたシトラスリボンを「差別をしない人間になる」ことを願う地域の皆さんに持ち帰りいただきました。
- ② 【国籍や人種の違いを越えて、お互いに文化や価値観を尊重する】
多文化共生の意味や市内在住外国人の国別割合等を紹介し、「外国の皆さんとも差別のない温かな社会を」と呼びかけました。

文化産業展の後も、三郷公民館のロビーで「女性に対する暴力をなくす運動」の一環として、パープル・ライトアップを行いました。ささやかな実践ですが、今より少しでも温かな地域になることを心から願っています。
(安曇野市男女共同参画推進会議 みさと支部)



企業人権啓発講演会

11月の伊藤ひよりさんの講演会では、歌を交え、性同一性障害のお話を伺いました。子どもの頃の話や性転換のための手続き、手術の詳細など当事者ならではのお話を聞くことができ、「自分らしく」あるために、こんなにも努力を重ねていることを知ることができました。同時に、ひよりさんのどんな困難にも負けない、しなやかな強さを感じました。

皆さんの周りにLGBTQの方はいますか?多くの方は「知らない」「どこかにいると思うけど、自分の周りにはいない」と感じているのではないのでしょうか。しかし、実際は約8%の方が該当するそうです。左利きの方やAB型の方がおよそ10%と考えれば、身近ですよ。 「いない」のではなく、「打ち明けられない」のだそうです。誰もが「自分らしく」生きることが受け入れられる優しい社会になってほしいと感じた夜でした。

最近、リモートやらで会議があるが、はたして自分の思いを直に相手に伝えられるのか。SDG sに関する講演をリモートで聞かせてもらったとき、「“持続可能”って何をどう続けられるのか」疑問に思った。自分たちが一つひとつ進めてきた町づくりの仲間。その仲間たちは合併して安曇野市になった後も、一年近く会えない今も、電話一本で集まってイベントに参加してくれる。それが何十年も続くと思えば、「持続可能”って私たちの生活そのものではないのか。お互い様の世界が当たり前にあるよ!!

互いの思いを聞き、育て、思いやりを持って作る仲間。その中でアイデアが生まれ、そしてまた仲間を誘い、風土がつくられていく。別に新しいことではねえじ。
(安曇野市男女共同参画推進会議 会長)



湧 愛

YOU & I

編集・監修・発行
安曇野市男女共同参画推進会議
安曇野市 総務部 人権男女共同参画課

安曇野市豊科6000番地(2階 8番窓口)
電話:(0263)71-2405
FAX:(0263)71-5155



めがねのかけあいっこ (yamami)



ほうちょうれんしゅう (ずーまる)



はじめてのマスク (高橋 友美)



おいしいね♪ (浅川 咲子)

前号から引き続き、「育メン・家事メン フォト&エピソード」の写真です!お父さんとお子さんの笑顔や真剣な顔、コロナ禍ならではの写真も。子どもの成長はあつという間だからこそ、“今”を大切にしたいですね。

もくじ	
「育メン・家事メン フォト」 1P
育児休業が変わる!? 2P
企業訪問(アズミ村田製作所) 2P
描くことは生きること 生きることは描くこと ~カミジヨウミカさん~ 3P
活動報告 4P



4月は若年層の性暴力被害予防月間

もうすぐ4月!4月は新しい環境にドキドキ・ワクワク、不安と期待のシーズンですね。しかし、進学や就職に伴い生活が大きく変化する4月は、若年層の女性が性犯罪・性暴力の被害に遭うリスクが高まるとされています。さらに、10代や20代に対する性犯罪の手口は巧妙になってきています。自分自身を守るため、大切な人を守るために、まずはこうした問題をみんなで共有しましょう。

育児休業が変わる!?

昨年6月に改正された育児・介護休業法が、4月からいよいよ始まります!

【令和4年4月から開始】

- ・育児休業を取りやすい環境の整備の義務化(研修の実施、相談窓口設置等)
- ・育児休業取得要件(雇用期間1年以上)の原則廃止

【令和4年10月までに変更】

- ・産後パパ育休(出生時育児休業)創設
→出生後8週間以内に4週間まで(2回まで分割可能)
- ・育児休業制度の変更
→2回まで分割可能

【令和5年4月から開始】

- ・育児休業の取得状況について公表を義務化(対象:1000人超の事業主)

「男性は仕事、女性は家庭」ではなく、誰もが自分のための人生を選べる選択肢が増えて欲しいですね。

企業訪問、行ってきました!

～ くるみん認定企業 (株)アズミ村田製作所 ～

入ってまず目にしたのは、正面玄関前の植え込み。それは北アルプスの山並みを模していました。山の名と共にきれいに刈り込まれた姿は、安曇野にしっかり根を下ろし、「地域」そして住民との「つながり」を大切にしている証のように思えました。

全従業員400人、うち女性60人、平均年齢は30代後半というアズミ村田製作所。男性の育休や育児参加を積極的にすすめ、次代を担う子どもたちの育成のため、働いている親の姿を見てもらう会社見学(大人版授業参観みたいですね!)やロボット・工作キットを使った、子ども自然科学教室なども行っているそうです。

従業員同士のチームワークを大切に、一人ひとりの力を伸ばし活動できる場を提供していくことに力を入れている姿勢や、女性の退職者は皆無という現状から見ても、働き手にとって、とても魅力的な企業だと感じました。担当の方からも「全社員の笑顔あふれる工場を目指し、社会に貢献できる企業としてこれからも努力していく」との力強い言葉もいただき、これからも楽しみにしています。貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

(安曇野市男女共同参画推進会議 ほりがね支部)



事務課の高尾マネージャーに伺いました!

描くことは生きること 生きることは描くこと

安曇野市出身の画家・アーティスト カミジョウ ミカ さん

カミジョウミカさんは常染色体劣性遺伝性疾患で、幼い頃からスポーツや外遊びなどができず、中学2年生から車イス生活になりました。長野県松本筑摩高校単位制を卒業し、未来ビジネスカレッジ(MIT)に入学後持病が悪化し、療養生活が始まりました(その後中退)。

入院した病院の看護師さん、医師などの顔を描くことを思いつき、抽象化して描いた似顔絵を看護師さんに手渡すと笑って喜んで下さり、ナースステーションにも飾ってくれました。展示のタイトルは「ミカ展」(二科展をもじって)で、絵を描くこと、自分が描いた絵をみて楽しんでもらったことは、ミカさんの忘れられない大切な思い出になりました。

2年後にはようやく座って絵を描けるようになり、似顔絵を描いたスケッチブックも10冊程になりました。ネガティブな部分(病気のこと・体の痛み・病気や障害を理由にいじめられたこと)も題材にしましたが、ほとんどの作品は眠っているときにみる夢の世界、空想の世界、妄想の世界、想像の世界を描いていることに気づき、「カラフル



R3 12/7~12/24 貞享義民記念館での「安曇野から考える人権展」

な空想の世界」と「夢の世界」を描くことがミカさんのメインテーマとなりました。

日常生活動作(起居動作・移乗・移動・食事・更衣・排泄・入浴・整容)は全介助という状況の中で、19歳の時喜んでくださった看護師さんの笑顔を思い出しながら、毎日ほとんどの時間を自室での作品制作に充て続けています。

ミカさんの空想は、菌類、昆虫、人や動物、地球、宇宙など様々なものに向けられ、作品ごとに湧き上がるイメージの多様さに驚かされます。先天性疾患のため外出が難しい中、「安曇野から考える人権」展にご出展いただきました。また女性に対する暴力の問題への意識を高めていただくため、キャラクターも制作していただきました。



(左) カミジョウ ミカ さんと
(上) ミカさんがデザインしたキャラクター